

R7 実務経験のある教員等による授業科目

学 部	経 営 学 部
学 科	情報マネジメント学科

N o	科目区分	授業科目名称	単位	担当教員
1	基本教育	キャリア設計	2	稲葉 健太郎
2	基本教育	キャリア開発	2	稲葉 健太郎
3	基本教育	キャリア研究	2	稲葉 健太郎
4	基本教育	地域と政策	2	横江 信一
5	基本教育	いしのまき学	2	亀谷 裕敬
6	基本教育	復興ボランティア学	2	佐々木 万亀夫
7	専門教育	経済学入門	2	茂木 克昭
8	専門教育	コンピュータ会計	2	関根 慎吾
9	専門教育	金融論	2	茂木 克昭

単位数合計	18
-------	----

ログインユーザ：
武者 和広

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	キャリア設計
職名／担当教員	経営学部 准教授 稲葉 健太郎
期間／曜日／時限	後期 水曜日 2時限
配 当	
単 位	2
コースコード	

講義内容	<授業概要> 本科目の目標は、自己を知り、社会を知ること、各自が自分にとって望ましい生き方・働き方はどのようなものであるかを自覚的に捉えることにある。具体的には、社会人・職業人として自立していくうえで必要とされるのはどのような「力」であり、それをどのように生かしていけばよいのかを学ぶとともに、さまざまな課題学習をとおして自己を理解し、大学生活の目標設定の方法と将来設計のための手法を身に付ける。 なお授業は、それぞれのテーマごとに課題解決的な演習や学内外から講師を招いての講義とするが、その学習内容に応じてアクティブラーニングやコミュニケーションスキルアップのための各種トレーニングを取り入れる。 <DPとの関連> 1幅広い教養と専門的知識[知識・理解]・☆ 2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]・- 3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]・- 4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]・- [☆:関連するもの、-:関連しないもの] [授業の方法] <授業形態> ・パワーポイントと配布資料を活用しながら、講義形式ですすめる。各クラスに分かれる場合は、グループワークや発表などの演習を行う。なお、外部講師からの講話の後は振り返りシートを書かせ、講義内容の定着を図る。 <授業計画> 【対面科目】 (1)ガイダンス：講義の約束・進め方及び講義内容を確認する。<自己紹介カード> (2)自己理解へのトライ：自己の特性を知り、進路について考える。 (3)大学生活を知ろう：自己理解、高校生と大学生の違いを知る。 (4)大学生活の目標(座談会)：学部代表学生6名からそれぞれの目標を発表してもらう。<振り返りシート1> (5)演習1：振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表し合う。 (6)演習2：ディスカッションを基に、大学生活の目標を設定し、レポートにまとめる。<課題レポート1> (7)社会人に必要な力を知ろう：石巻専修大学OB・OG3名による座談会。<振り返りシート2> (8)演習3：演習の手順についてパワーポイントを用いて説明した後、各クラスに分かれて演習を行う。 (9)演習4：社会人に必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。 (10)演習5：班ごとに発表し合い、社会人に必要な力をレポートにまとめる。<課題レポート2> (11)キャリアをデザインしていくために必要な力：石巻地域で活躍している3名の鼎談。<振り返りシート3> (12)振り返りシートを基に各班でディスカッションし、班ごとに発表を行う。 (13)演習6：キャリアをデザインしていくために必要な力を各班でディスカッションし、模造紙にまとめる。 (14)演習7：各班でまとめたものを班ごとに発表し合う。 (15)キャリア設計の講義を振り返り、大学生活をデザインする。<課題レポート3> ※1 演習やアクティブラーニングを取り入れるため、サポート教員を配置する。 ※2 サポート教員は、それぞれのクラスを掌握し、出欠確認やレポートの点検評価、演習等の助言に当たる。 <アクティブラーニング取り入れ状況> 講話等の振り返りでグループワークやグループ発表を適宜取り入れる。 <課題に対するフィードバック方法> 講義ごとに振り返りシートや課題レポートを書かせる。振り返りシートは演習の参考にするため、評価後にできるだけ早く返却する。また、ベストシートやベストレポートを適宜紹介する。
教科書・参考書	<教科書>：使用しない。 <参考書等>：講義ごとに資料を配布する。
成績評価方法・基準	<評価方法> 平常の学習状況(20%)、振り返りシートや課題レポート(60%)、演習・発表内容(20%)等により総合的に評価する。 ただし、5回以上欠席した場合は単位取得の意志無しとみなし0点とする。
履修上の留意点	<事前学習・事後学習> 事前学習：単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料をもとに予習復習を行うこと。特に、レポート課題については、図書館やインターネットを活用し、自分の言葉でまとめるようにすること。(2時間) 事後指導：授業終了後、その内容を振り返り、自分の考えをまとめる。(2時間) <科目の位置づけと他科目との関連> 「キャリア設計」は、キャリア教育の土台になるので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の事業も併せて受講することが望ましい。 <欠席について> ・「公認欠席」は欠席にカウントしない。保健室等の承認を得た欠席届を提出すること。 ・その他、やむを得ない事情により授業を欠席した場合、必ず診断書等の証跡を添付し欠席届を提出すること。 欠席届を提出の上、別途出題される課題レポートを提出することで出席扱いとする。
担当教員へのアクセス	3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)
その他	単元ごとに配布するハンドアウトや参考資料のみならず、自分で調べた資料を整理してファイルしておくこと。 <オフィスアワー> 相談は随時受け付けます。 (実務経験のある教員による授業) オムニバス形式で多様な企業や本学OB・OG等を講師に招き、実務経験に沿った助言を行っている。
更新日付	2025/01/31 15:13

ログインユーザ：
武者 和広

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	キャリア開発
職名／担当教員	経営学部 准教授 稲葉 健太郎
期間／曜日／時限	通年 金曜日 1時限
配 当	
単 位	2
コースコード	

講義内容	<授業概要> 社会人として豊かな職業人生を歩んでいくためには自己理解と社会・職業理解が必須である。また、大学生にとってキャリアとは就職活動のみを指すのではなく、人生そのものについて考え、実践していくものである。よって、在学中または卒業後に豊かなキャリアを歩んでいくために次の事項を中心に授業を構成する。 ・自己のキャリアを体系的にデザインするためのキャリアに関する諸理論を学ぶ。 ・就職活動における自己理解と業界・職業分析の必要性と方法を学ぶ。 ・ビジネス現場で求められるマナーについて学ぶ。 ・具体的な卒業後のキャリアの事例について学ぶ。 前半は主に講義を通してキャリアに関する諸理論や自己理解、業界・職業研究の方法について学ぶ。また、実際に企業が抱えている課題について解決を試みる実習も行う。後半にはゲストスピーカーを招き、企業の現場の話題を提供してもらうとともに、学生に対してどのように考えているのかについて講義してもらう。 <DPとの関連> 1幅広い教養と専門的知識[知識・理解] ☆ 2情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能] - 3主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性] - 4創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力] - [☆:関連するもの、-:関連しないもの] <到達目標> ・自己分析と業界・職業研究をすることができるようになる。 ・社会人に必要な基礎力とは何かを理解する。 ・ゲストスピーカーの話聞くことで企業の現場について知ることができる。 [授業の方法] <授業形態> 講義形式で行う。授業は通年で15回とする。予定表に従って講義に参加してもらうことになる。講義は主に担当教員の他、外部講師やゲストスピーカーが担当することもある。 <授業計画> 【対面科目】 (1)ガイダンス (2)キャリアとは何か・社会人基礎力について (3)自己分析の実践 (4)業界を知る (5)職種を知る (6)働き方を知る (7)課題解決能力を身につける① (8)課題解決能力を身につける② (9)課題解決能力を身につける③ (10)キャリアインタビュー①(ゲストスピーカー) (11)キャリアインタビュー②(ゲストスピーカー) (12)キャリアインタビュー③(ゲストスピーカー) (13)キャリアをデザインする① (14)キャリアをデザインする② (15)まとめ <アクティブラーニングの取り入れ状況> キャリア開発ではグループワークを取り入れている。他者との交流を通して自己理解を深める。また、インターンシップや就職活動、就業後の活動に向けた実践的なワークを実施する。ポスターやPowerPoint等を使用したプレゼンを行うこともある。 <課題に対するフィードバック方法> 講義の振り返り用のレポートを提出し、それについてフィードバックを行う。
教科書・参考書	<教科書・参考書等> 教科書:講義で指定する。 参考書等:講義で指定する。
成績評価方法・基準	<評価方法> (1)試験・テストについて 試験は行わない。 (2)試験以外の評価方法 レポートによる評価を行う。 (3)成績の配分・評価基準など 平常の学習状況(20%)、事前学習・事後学習・レポート(80%)等により総合的に評価する。
履修上の留意点	<事前学習・事後学習> 事前学習:授業で配布された参考資料をもとに予習復習を行い次の授業の準備をしておくことが望ましい。キャリアインタビューにおいては就職資料室やインターネットを活用し、業界や業種、職種等について知りたいことを調べ質問できるようにしておくことが望ましい。(2時間) 事後学習:自己分析や職業・業界研究を個人で進める。(2時間) <他科目との関連> 1年次で学習した「キャリア設計」を踏まえ、3年次の「キャリア研究」つながるものである。キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくもので、自分の人生を有意義なものにするために主体的に取り組むこと、また、進路・学生支援課で実施しているキャリア関係の行事にも併せて参加、受講することが望ましい。
担当教員へのアクセス	3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)
その他	<オフィスアワー> 相談は随時受け付けます。 (実務経験のある教員による授業) キャリア教育に関する外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育を行う。
更新日付	2025/01/31 14:03

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	キャリア研究
職名／担当教員	経営学部 准教授 稲葉 健太郎
期間／曜日／時限	通年 木曜日 4時限
配 当	
単 位	2
コースコード	

講義内容	<授業概要> キャリア教育の仕上げ段階として、実践的なノウハウや実例を中心に各界の専門家によるオムニバス形式の授業である。自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]- ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]- ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]- [☆:関連するもの、-:関連しないもの] <到達目標> 将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を身に着ける。 [授業の方法] <授業形態> 進路ガイダンスへの参加及び企業が行う就業体験への参加を以て授業とする。 <授業計画> 【対面科目】 (1)就職活動の心構え、各種手続き、情報収集法 (2)履歴書・エントリーシート作成講座 (3)自己分析講座 (4)業界・企業・職種研究のノウハウ (5)社会や会社の常識 (6)社会人に必要なビジネスマナー (7)好印象を与える身だしなみ、リクルートファッション (8)一般試験（SPI）対策講座 (9)面接対策講座① 採用面接を受ける心構え (10)面接対策講座② グループディスカッションに備えて (11)企業の採用担当経験者による「来て欲しい人物像」 (12)本学卒業生による業界、職種の事例紹介 (13)就業体験の解説 (14)就業体験 (15)就業体験発表会 上記の授業計画は講師の都合等で順序が前後することがある。また、この他にも授業の一環として就業体験の①受入先との調整、②申込み書類の添削指導、③必要に応じ事前研修、④発表会の準備を行うことがある。 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 就業体験として企業や地方自治体等の組織で各種の体験を積んでもらう。 <課題に対するフィードバックの方法> 毎回交替で別な講師が講義するため、各講義における質問等は講義終了後に担当講師が受け付ける。 全体的なスケジュールやテーマの選択に関しては担当教員（就職指導部長）に相談してほしい。
教科書・参考書	特になし。必要に応じてプリントを配布する。 参考書として、一般的な就職支援書籍（SPI攻略本や社会人マナー）の中から気に入ったものを持っていると就職活動の助けになる。
成績評価方法・基準	<評価方法> ・講座形式での平常の学習状況 ・受講後のレポート ・就業体験の報告およびプレゼン課題 により総合的に評価する。ただし、就業体験への参加は原則必須とする。
履修上の留意点	<準備学習> ・講座形式の際は特に準備を要しないが、高い意識で望むこと。 ・就業体験の際は事前に就業先について十分に研究して望むこと。 <事後学習> ・講座を受講後にレポートを提出いただく。内容は毎回指示する。 ・就業体験では修了後にプレゼン資料を作り発表いただく。 <科目の位置づけと他科目との関連> ・キャリア教育全体は、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成していくものなので、自分の人生を有意義なものにするためにも主体的に取り組むこと。 ・自分の適性や将来の目標について考える機会であるので、何事も主体的に取り組むことが望まれる。このため、これまで学習した「キャリア設計」「キャリア開発」の内容を復習しておくことが望ましい。 <就業体験> ・就業体験に参加する場合には、しっかりと事前準備し望むこと。 ・就業派遣先での無断欠席や遅刻など迷惑となる行為は厳禁。 ・就業派遣先や日程の決定は、個別に指導・調整する。 ・学外での行動は安全に最大限の注意を払うこと。
担当教員へのアクセス	3111研究室(3号館1階 稲葉健太郎)
その他	<オフィスアワー> 相談は随時受け付けます。 (実務経験のある教員による授業) 就業体験の事前事後指導に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的なキャリア教育と就業体験を行う。
更新日付	2025/01/31 13:51

ログインユーザ：
武者 和広

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	地域と政策
職名／担当教員	人間学部 教授 横江 信一
期間／曜日／時限	後期 火曜日 5時限
配 当	
単 位	2
コースコード	ARS110

講義内容	<授業概要> 分権改革後の自治体は、自治体運営の主体としての責任が大きくなり、都道府県、市町村を問わず、それぞれの自治体は、地方制度の枠組みのなかで、自らがもつ様々な資源を活用しつつ住民の求める政策を展開することになった。この講義では、学外から招いた石巻圏域（石巻市、東松島市、女川町）の首長をはじめ自治体職員等地方行政に携わっている実務家を中心とした講師陣が、政策主体としての自治体という観点から、制度、政策など自治体が当面する課題について論ずるとともに、近年顕著となってきたコミュニティ論に立脚した自治と地域社会の在り方について理解する。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識〔知識・理解〕：☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力〔汎用的技能〕：－ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢〔態度・志向性〕：－ ④創造的思考力と研究遂行能力〔統合的な学習経験と創造的思考力〕：☆ 〔☆：関連するもの、－：関連しないもの〕 <到達目標> テーマ：地域政策の現状把握と課題追究からまちづくりを展望する。 到達目標：行政担当者による施策の解説を通して、地域政策の方法と現状を把握し、まちづくりに必要とされる地域住民と自治体の連携の在り方について理解することができる。 〔授業の方法〕 <授業の形態> 配布資料、パワーポイントを使用しながら行政担当者による基調講話（45分程度）を基に、グループディスカッションと組み合わせたグループワークによる演習を行う。授業計画通りに実施する予定にしているが、石巻市役所、東松島市役所、女川町役場の担当職員が講義を行うため、人事異動等から多少の変更が予想される。決定次第、内容については授業で使用する資料は教員が用意する。 <授業計画> 【対面科目】 (1) 講義の概要説明 (2) 石巻圏域（石巻市・東松島市・女川町）の現状と政策 (3) 地域政策と地方自治、議会と選挙管理委員会の役割 (4) 石巻市の施政方針について（石巻市） (5) 地域防災の取組について（石巻市） (6) 石巻市の産業観光政策について（石巻市） (7) 石巻市の地域政策のまとめ (8) 東松島市の施政方針（東松島市） (9) 東松島市のコミュニティ・スクール事業について（東松島市） (10) 産業観光政策の事例（東松島市） (11) 東松島市の地域政策のまとめ (12) 女川町の施政方針（女川町） (13) 産業観光政策の事例（女川町） (14) 安全・安心なまちづくりについて（女川町） (15) 女川町の地域政策のまとめ <アクティブラーニング取り入れ状況> グループ討議と全体発表を行う。グループワークとプレゼンテーションによるまとめを行う。 <課題に対するフィードバック方法> 基調講話を聞きながらメモを取り、グループ討議によって自分自身の考えを小レポート（振り返りシート）にまとめ、回収する。小レポート（振り返りシート）の回収後コメントを記入して返却する。
教科書・参考書	<教科書>：使用しない。 <参考書等>：授業で紹介する。
成績評価方法・基準	<評価方法> (1) 試験・テストについて 試験は実施しない。 (2) 試験以外の評価方法 授業中に小レポート（振り返りシート）を作成する。（全12回） 課題レポートを時間内に行う。（1回） (3) 成績の配分・評価基準等 成績区分は、Sが100～90点、Aが89～80点、Bが79～70点、Cが69～60点、59点以下を不合格とする。出席を重視し、評価は授業への貢献度（60％）、授業中の小レポート（10％）と最終課題レポート（30％）であり、レポートや発表および平常の学習状況により総合的に評価する。講義を欠席した（する）学生は必ず理由を明示した欠席届を提出すること。欠席理由により、配慮することもある。
履修上の留意点	<事前学習・事後学習> 事前学習：石巻地域は東日本大震災からの復興過程である。新聞等には復興に関する記事が多々掲載されているので、特に注意を払ってほしい。また、授業の前には石巻市役所、東松島市役所、女川町役場（各部・各課）の仕事の内容をホームページで調べておくこと。（120分） 事後学習：日頃から日常生活や社会に関する問題や課題、社会の動きについて情報収集を行うことが望ましい。（120分） <他科目との関連> 地域の行政施策を理解する上でいしのみき学、地域産業論、地域経営論と相互に関連する科目なので、これら3科目とも履修することが望ましい。
担当教員へのアクセス	研究室：3号館2階3221 メールアドレス：yokoe@isenshu-u.ac.jp

その他	授業内容に関する質問は、授業中及び授業終了時に随時受け付ける。 ＜オフィスアワー＞相談は随時受け付ける。 （実務経験のある教員による授業） 圏域行政等の課題に関して外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。
更新日付	2025/01/31 10:54

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	いしのまき学
職名／担当教員	理工学部 教授 亀谷 裕敬
期間／曜日／時限	前期 水曜日 2時限
配 当	
単 位	2
コースコード	ARS110

講義内容	※この内容は昨年度(令和6年度)のシラバスであり、今年度(令和7年度)の内容は、第1回目の授業内で周知する ＜授業概要＞ 皆さんが大学生活を送る石巻市は「SDGs未来都市」に選定され、2030年までに持続可能な地域社会を実現するためのさまざまな取り組みを行っている。この授業では、石巻市とその圏域について知り、ともによりよい地域社会を実現してゆくための課題を発見し、その一員としてできることは何かを思考し、主体的な行動につなげていくための学びの基盤を身につける。 オムニバス形式で実務経験のある複数の外部講師などを招き、石巻圏域の歴史・文化・社会について、さまざまな角度から地域を理解するとともに、学生生活を通じて地域に貢献しながら地域の中で学ぶ方法を実践的に学ぶ。 ＜DPとの関連＞ ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]：☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]：☆ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]：☆ ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]：－ [☆：関連するもの、－：関連しないもの] ＜到達目標＞ (1)石巻圏の歴史・文化・社会についての基礎知識を身に付け、地域社会の課題について多面的に思考できる。 (2)大学の学びの中で有効に情報ツールを活用し、適切に情報収集・整理・発信することができる。 [授業の方法] ＜授業形態＞ 配布プリントやPowerPointなどを用いて、オムニバス講義形式で授業をすすめる。 ＜講義計画＞ 【対面科目】 1(4/10) ガイダンスー「分からない」と向き合う 2(4/17) 「誇れる石巻を目指して～石巻に住んで良かったと思えるまちづくり～」 齋藤正美(石巻市長) 3(4/24) 東日本大震災からの大学の取組と地域社会連携 尾形孝輔(石巻専修大学事務課) 4(5/08) 東日本大震災の記憶と教訓の伝承 白須 肇(宮城県復興支援・伝承課) 5(5/15) 石巻と地域メディア 山口結史(石巻日日新聞社) 6(5/22) 石巻の自然環境 平井和也(石巻・川のビジターセンター) 7(5/29) 石巻の歴史 横江信一(石巻専修大学人間学部) 8(6/05) 石巻市博物館ミュージアム・トーク 佐藤麻南(石巻市博物館) 9(6/12) 石巻で働く 斉藤誠太郎(まちと人と) 10(6/19) 石巻を遊ぶー川開き祭について 毛利広幸(石巻商工会議所) 11(6/26) 石巻の街づくり 木村仁(街づくりまんぼう) 12(7/03) 石巻の行政 未定(石巻市政企画課) 13(7/10) 面白がる力が人生を豊かにする 千葉均(ポブラ社) 14(7/17) SDGs未来都市いしのまきの実現に向けて 阿部雄大(石巻市SDGs移住定住推進課) 15(7/24) 総括ー石巻というフィールドでわたしたちができること ※ 第2回(4/17)と第8回(6/5)は、「マルホンまきあーとテラス(石巻市複合文化施設)」訪問を予定しています。 ＜アクティブラーニングの取り入れ状況＞ ・グループワークを行う。・リアクションペーパーを使用する。 ＜課題に対するフィードバック方法＞ 毎時間の課題や学生からのコメントに対するフィードバックは、講義内やInCampusなどで適宜行う。
教科書・参考書	＜教科書＞なし ＜参考文献＞講義内やInCampusを通じて適宜紹介する。
成績評価方法・基準	(1)評価方法 ＜成績評価方法・基準＞ (1)試験・テストについて 試験は実施しない。 (2)試験以外の評価方法 期末の課題レポート、および各回後に実施するリアクションペーパー、指定課題への取組を求める。 (3)成績の配分・評価基準等 リアクションペーパー・指定課題(60%)、期末の課題レポート(40%)により総合的に評価する。講義の内容を理解し、的確にまとめ、与えられたテーマについて論じることができているかを基準とする。平常点で評価。
履修上の留意点	事前学習：それぞれの講義テーマについての事前調査を行う。指定課題に取り組む。(120分) 事後学習：講義内容について復習し、講義テーマに関する指定課題に取り組む。(120分)
担当教員へのアクセス	
その他	
更新日付	2025/03/24 13:39

ログインユーザ：
武者 和広

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	復興ボランティア学
職名／担当教員	経営学部 教授 佐々木 万亀夫
期間／曜日／時限	前期 水曜日 5時限
配 当	
単 位	2
コースコード	SOS110

講義内容	<授業概要> 東日本大震災後に数多くの災害ボランティアが多くの被災地で活躍しました。最も多数の被害者を出した地方自治体であります石巻市においても、全国から多くの個人・団体（NPO、NGOなど）の災害ボランティアが集まって来ました。石巻専修大学には、石巻市社会福祉協議会が中心である石巻市災害ボランティアセンターが設置され、災害ボランティアが活躍できる基盤および拠点が構築されました。さらに、自立して活動できるNPO・NGOは石巻災害復興支援協議会（現在の公益社団法人3.11みらいサポート）を設立し、石巻市災害ボランティアセンターを経由せず、自分たちでニーズを見つけて復旧活動に取り組みました。 本授業では、大震災から現在まで時間とともに変化していく石巻地域の課題に向き合ってきた団体等のリーダーや本学の教員を講師として、大震災後の復興の状況を学びます。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: ー ③主体的な行動力と社会課題解決への姿勢[態度・志向性]: ー ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: ー 〔☆:関連するもの、ー:関連しないもの〕 <到達目標> ・石巻地域で活躍している復興に携わる団体の実態の理解 ・小さなことでも良いから、自分から進んで復興に貢献すること [授業の方法] <授業形態> Power Pointと配布資料を用いて「講義・演習形式」で進めます。 <授業計画> 【対面科目】 尚、講師の都合により、授業の内容や順番などが変更されることがあります。 【第1部 被災から復旧へ】 (1) 授業概要、NPOとボランティアについて（佐々木） (2) 東日本大震災の概要（いしのまきNPOセンター理事 四倉禎一郎） (3) 東日本大震災時の大学の役割1（避難所としての機能）（佐々木） (4) 東日本大震災時の大学の役割2（復旧活動拠点としての機能）（佐々木） (5) 災害とボランティア（一般社団法人BIG UP石巻代表 阿部由紀） (6) 石巻市内のNPOの活動について（石巻市NPO支援オフィス副センター長 越水章恵） (7) ボランティア活動における中間支援の役割（いしのまきNPOセンター副代表理事 木村正樹） (8) 課題演習1 【第2部 復旧から復興へ】 (9) かんばろう石巻の看板の活動を通して思うこと（いしのまきNPOセンター副代表理事 黒澤健一） (10) 東日本大震災直後のボランティアとNPOの協働（3.11メモリアルネットワーク専務理事 中川政治） (11) 震災を契機とした子ども、子育て当事者による取り組み （いしのまき子どもセンターコンソーシアム 代表 荒木裕美、吉川恭平） (12) どんな境遇の子どもにも向き合い続ける学生ボランティア活動（TEDIC代表理事 鈴木平） (13) 震災後のコミュニティづくりと未来に向けた協働 （石巻じちれん事務局長/いしのまき会議共同代表理事 田上琢磨） (14) 子どもの居場所作り、遊び場作り活動における大学生ボランティアの役割 （にじいろクレヨン理事長 柴田滋紀） (15) まとめ、課題演習2 <アクティブラーニングの取り入れ状況> 理解度の確認のため、授業の終わりに毎回小テストを行います。また、2回課題演習を行います。 <課題に対するフィードバック方法> 必要に応じて、小テストや講義演習の際にコメントや説明をします。なお、課題演習は講義の復習を兼ねています。
教科書・参考書	<教科書> 特に指定はありません。プリントを配布します。 <参考書> 特に指定はありません。
成績評価方法・基準	<評価方法> 小テスト(50%)、課題演習(50%)にて総合評価します。
履修上の留意点	<事前学習・事後学習> 事前学習: 日頃からボランティアやNPOに関する新聞記事や雑誌等を見て、授業に関する教養を深めること。(90分) 事後学習: 配布するプリントを十分に復習すること。(150分) <他科目との関連> いしのまき学、ボランティア論などの理解を深めるのに役立つ科目です。
担当教員へのアクセス	研究室: 3号館1階3120研究室 メールアドレス: msasaki@isenshu-u.ac.jp
その他	<オフィスアワー> 講義内容に関する質問は 3120研究室で随時受け付けます。 <実務経験のある教員による授業> 外部講師を招き、オムニバス形式で実践的な教育を行う。
更新日付	2025/01/31 13:47

ログインユーザ：
武者 和広

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	経済学入門
職名／担当教員	経営学部 教授 茂木 克昭
期間／曜日／時限	後期 月曜日 3時限
配 当	
単 位	2
コースコード	ECN130

講義内容	<授業概要> 本講義は、ミクロ経済学とマクロ経済学の主要内容を概説する。具体的なトピックスも随所に入れ、現実経済とのつながりを考え、経済を見る眼を修得する。 前半はミクロ経済学、後半はマクロ経済学を扱う。 <到達目標> 学生は、今日の経済学の主要内容についての知識および経済問題への考え方を習得することができる。 <授業計画> (1) ガイダンス： 経済学はどのような学問か、経済学を学ぶ目的 (2) 需要と供給、需要曲線と消費者行動 (3) 費用の構造と供給行動 (4) 市場取引と資源配分 (5) 独占と競争の理論 (6) 市場の失敗 (7) 不確実性と不完全情報の世界 (8) ゲームの理論 (9) マクロ経済学とGDP、国民経済計算 (10) 有効需要と乗数メカニズム (11) 貨幣の機能 (12) マクロ経済政策 (13) インフレ・デフレと失業 (14) 高齢社会の財政運営 (15) 経済成長と経済発展 (16) 国際経済学 (17) 試験および総括 グループワークとグループ発表を行う(全1回)。 <授業形態> 講義形式で行い、授業の最後にドリル(理解度確認テスト)を毎回実施する。 <課題に対するフィードバック方法> 実施の際にフィードバックの方法を説明する。
教科書・参考書	テキスト： 伊藤元重著「入門経済学」 (日本評論社、1988年刊行、2021年1月第4版第6刷発行、3000円プラス税) 授業・試験は、このテキストを軸に行う。毎回テキスト掲載の図表を配布する。 購入は必須とはしないものの、理解の促進のために購入を推奨する。 ノートをとる手間を省きたい学生は購入が不可欠である。
成績評価方法・基準	(1) 試験・テストについて 講義最終日に試験を実施する。 (2) 試験以外の評価方法 理解度確認ドリルを毎回実施し、出席確認も行う。 (3) 成績の配分・評価基準等 講義最終回の試験80%、理解度確認テスト10%、授業への貢献度10%である。
履修上の留意点	<準備学習> 特になし。 <事後学習> ドリルについては、理解を確実にしておこう。 <科目の位置づけと他科目との関連> 経済学は、社会科学の基礎であり、経営学の科目や金融論等とも関連する部分が多いので、考え方の基礎を特に重視して修得するようにしよう。
担当教員へのアクセス	研究室：3号館2階3201 / メールアドレス：kmogi@isenshu-u.ac.jp テキストを担当教員から購入したい学生は、研究室を訪問して購入すること。
その他	<オフィスアワー> 担当教員に質問・相談のある場合には、3号館2階3201 研究室で随時対応します。メールにてアポをとるようにしてください。 <実務経験のある教員による授業> 金融機関での実務経験を活かし、金融の観点から講義を行う。
更新日付	2025/02/10 14:38

ログインユーザ：
武者 和広

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	コンピュータ会計
職名／担当教員	経営学部 教授 関根 慎吾
期間／曜日／時限	後期 水曜日 3時限
配 当	
単 位	2
コースコード	ACC230

講義内容	<授業概要> 今日、会計のコンピュータ化はパソコンの普及によって一段と進み、それに伴って企業における会計担当者の役割も大きく変わろうとしています。会計担当者は「会計データの専門家」としての役割が期待されるようになっていきます。このような会計を取り巻く経営環境の変化を踏まえて、本授業ではエクセル等の汎用ソフトやコンピュータ会計ソフトを実際に操作して、財務諸表を作成しながら会計数値の意味を考えたり、会計システムの検討を行ったりすることを目的としています。 なお、本授業は対面と非対面の両形態で授業を実施します。ただし、対面授業での受講生の受け入れが、施設の制約上50人に制限されますので、対面・非対面の希望を踏まえて、受講形態を調整する可能性があります。そのため、第1回授業のみは、授業進行上の諸注意を説明した上で受講形態の調整を実施するため、対面でのみ授業を実施します。受講を希望する学生は必ず、第1回授業として指定された教室（第1回のみは別教室）に集合してください。 <DPとの関連> ①幅広い教養と専門的知識[知識・理解]: ☆ ②情報収集力と情報発信力および専門的能力[汎用的技能]: ☆ ③主体的な行動力と社会諸課題解決への姿勢[態度・志向性]: ☆ ④創造的思考力と研究遂行能力[統合的な学習経験と創造的思考力]: ☆ [☆: 関連するもの、-: 関連しないもの] <到達目標> 1. コンピュータ会計ソフトで基本的な会計情報の作成ができるようにすること。 2. エクセル等の汎用ソフトで会計業務を支援するシステムを構築できるようにすること。 <授業計画> (1)ガイダンスーコンピュータ会計総論 ～コンピュータシステムの利用と経理業務～ (2)弥生会計での会計データの作成 その1: 基本操作(会計ソフトの使い方)の学習 [非対面: 同時配信] (3)弥生会計での会計データの作成 その2: 基本操作(期中取引の伝票入力) [非対面: 同時配信] (4)弥生会計での会計データの作成 その3: 基本操作(残高試算表の出力) [非対面: 同時配信] (5)弥生会計での会計データの作成 その4: 演習(1) 日常の取引 [非対面: 同時配信] (6)弥生会計での会計データの作成 その5: 演習(2) 税金に関する会計処理 [非対面: 同時配信] (7)弥生会計での会計データの作成 その6: 演習(3) 各種帳票の出力 [非対面: 同時配信] (8)会計で利用されるエクセル関数 その1: 集計のための関数 [非対面: 同時配信] (9)会計で利用されるエクセル関数 その2: 抽出のための関数 [非対面: 同時配信] (10)会計ソフトを支援する補助簿の作成 [非対面: 同時配信] (11)在庫管理システムの構築 その1: 条件の整理と資料の収集 [非対面: 同時配信] (12)在庫管理システムの構築 その2: 在庫数量の管理 [非対面: 同時配信] (13)在庫管理システムの構築 その3: 在庫金額の把握 [非対面: 同時配信] (14)在庫管理システムの構築 その4: 演習(エクセルと会計ソフトによる管理システムの構築) [非対面: 同時配信] (15)これまでのまとめと課題の作成 [非対面: 同時配信] <アクティブラーニングの取り入れ状況> 学習内容をまとめ、提示された課題に取り組む。 [授業の方法] <授業形態> 実習内容の解説の後、実技を行う。 <課題に対するフィードバック方法> 実習課題の提出後に、課題を解説する。 <その他> 各回の授業には個人のデータを保管できるようにしておいて下さい。 <実務経験のある教員による授業> 企業での実務経験を活かし、コンピュータ会計の観点から講義を行う。
教科書・参考書	<教科書・参考書等> 教科書: 弥生スクール著、『コンピュータ会計基本テキスト』実教出版、2,300円＋税。 参考書: 笠原清明著、『改訂版 経理に使えるExcel事典』明日香出版社。 三島 義弘著、『経理のための Excelテンプレート徹底活用』技術評論社。
成績評価方法・基準	・成績評価は学習姿勢点と最終課題により行う。最終課題は提出を1回のみとする。 (1)試験・テストについて テストは行わない。 (2)試験以外の評価方法 出席及び授業内に提示した課題の提出を求める。 (3)成績の配分・評価基準等 提出課題60%、学習姿勢点40%とする。学習姿勢点には、授業への積極的な姿勢や貢献も含まれる。
履修上の留意点	・この授業では、原則として簿記の仕訳について説明はしない。また、質問にも応じない。 ・教科書を確認すれば済む質問には対応しない。 ・必要であれば簿記や会計学、その他の教科書や参考書を、授業中に参照して構わない。 ・欠席連絡は必ず、Teamsの欠席連絡タブにて授業後の日曜日までに行うこと。ただし、正当な理由があつて連絡が遅れた場合は届を受理することもあるので、その場合は必ず担当教員まで問い合わせること。 ・無断欠席は、1回で授業姿勢点(40点)を無効とする。無断欠席とは、①授業出席要件を満たさず、②事後学習課題を未提出とし、さらに③欠席届が受理されなかった場合のことを言う。 ・対面授業を希望する受講生は毎回教科書を現物で持参すること。所持していない場合は、出席とは認めない。 <準備学習> 次回授業で学習する会計の内容(仕訳など)を各自で調べて理解し、コンピュータソフトの操作を教科書等で確認しておく。(120分) <事後学習> 教科書に付属する体験版を各自のPC(WINDOWS)にダウンロードして、授業で取り組んだ課題を反復練習して下さい。授業時間内で課題を終わらせることができないかもしれませんが、必ず出された課題は自分でこなしてください。なお、事後学習課題は、毎授業終了後の金曜日中に提出期限とします。(120分) <他科目との関連> これまでの会計学関連の科目すべての知識を必要とする。

担当教員への アクセス	研究室:3号館2階3218 メールアドレス: sekine@isenshu-u.ac.jp
その他	<オフィスアワー> 時間帯:水曜4時限(15:10~15:40) 場所: 研究室(3号館2階3218室)
更新日付	2025/01/29 16:36

ログインユーザ：
武者 和広

シラバス参照

開講年度	2025
科目名	金融論
職名／担当教員	経営学部 教授 茂木 克昭
期間／曜日／時限	後期 月曜日 1時限
配 当	
単 位	2
コースコード	MAN230

講義内容	<授業概要> 本講義では、わが国の金融に関して、マクロ経済の視点、金融政策の視点、金融制度の視点から、金融に関する基礎的な知識を学び、金融を通じて経済を見る眼を修得する。 <到達目標> 学生は、資金循環、金融機関、金融市場、金融政策、金利、決済制度といった金融の基本事項についての知識を習得することができる。 <授業計画> (1) ガイダンスおよびマクロ経済と金融について (2) 貨幣の利用と金融 (3) 国民経済と金融：資金循環表 (4) わが国の金融機関(1)メガバンク・地方銀行 (5) わが国の金融機関(2)その他の金融機関・公的金融機関 (6) わが国の金融市場(1)短期金融市場 (7) わが国の金融市場(2)長期金融市場 (8) 日本銀行の役割と金融政策(1)中央銀行について (9) 日本銀行の役割と金融政策(2)金融政策の目標 (10) 金融政策の手段 (11) 信用創造とマネーストック (12) わが国の金融政策の推移 (13) 金利についてー金利の構成要素とイールド・カーブー (14) わが国の決済制度 (15) 試験および総括 グループワークとグループ発表を行う(全1回)。 <授業形態> 講義形式で行い、授業の最後に理解度確認テストを毎回実施する。 <課題に対するフィードバック方法> 理解度確認テストについてはCourse Powerに解答を掲載する。
教科書・参考書	教科書： 拙著「初学者のための金融論入門」（現代図書、2016年刊行） 授業・試験においてこのテキストを用いるので、受講において不可欠である。各自ヤマザキショップで購入すること。担当教員も在庫を保有しているため、直接申し出て購入してもよい。 参考書： 島村高嘉・中島真志「金融読本」(第29版)東洋経済新報
成績評価方法・基準	(1) 試験・テストについて 講義最終日に試験を実施する。 (2) 試験以外の評価方法 理解度確認テストを毎回実施する。 (3) 成績の配分・評価基準等 講義最終回の試験80%、理解度確認テスト10%、授業への貢献度10%である。
履修上の留意点	<準備学習> 拙著「初学者のための金融論入門」の講義該当部分に目を通してから授業を受けよう。 <事後学習> 理解度確認テストの解答を読み、理解を確実にしておこう。 <科目の位置づけと他科目との関連> より進んだ金融論の講義を行う科目としてファイナンスがある。また、外国為替・国際金融の基礎分野については、国際金融論を受講することが必要である。拙著「初学者のための金融論入門」はそれらの科目のテキストとしても用いる。
担当教員へのアクセス	研究室: 3号館2階3201/メールアドレス: kmogi@isenshu-u.ac.jp テキストを担当教員から購入したい学生は、研究室を訪問して購入すること。
その他	<オフィスアワー> 担当教員に質問・相談のある場合には、3号館2階3201研究室で随時対応します。メールにてアポをとるようにしてください。 <実務経験のある教員による授業> 金融機関での実務経験を活かし、金融の観点から講義を行う。
更新日付	2025/01/24 16:07